

Zeitung, (3): 257-272.

Reitter, E., 1885. Die Nitiduliden Japans. Wiener Entomologische Zeitung, (4): 173-176.

酒井哲弥, 1988. 福井県未記録の甲虫数種. 福井虫報, (2): 48.  
吉田正隆・黒田祐次・田中光治・櫻木大介, 2008. 美馬市木屋平地域の甲虫. 阿波学会紀要, (54): 65-75.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

### 【短報】ヒメドロムシ科の蛹を野外で発見

ヒメドロムシ科は微少な種が多く、幼虫が水中生活をしていることもあり、国内では野外での蛹の確認例はない。一方、飼育条件においてヒメハバビドロムシ *Dryopomorphus nakanei* Nomura, 1958 やアヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (Nomura, 1958), ケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* Nomura, 1957, ハガマルヒメドロムシ *Optioservus hagai* Nomura, 1958 の蛹が確認されている(林, 2008, 2009, 未公表; 林・門脇, 2008)。飼育条件下での蛹化場所はいずれも陸上であり、上陸直前に幼虫がC字型に曲がった状態で水面近くを浮遊することが観察されている(林, 2009)。

筆者は種は不明なものヒメドロムシ科の蛹を野外で確認したので報告する。



図1. 蛹の確認場所の環境。



図2. 生時のヒメドロムシ科の蛹。



図3. エタノール液浸標本。

1ex. (蛹), 島根県江津市江の川河口右岸, 25. VII. 2012, 筆者採集。

河口の水際の砂礫地(図1)にて、石起こしをしていたところ、直径4cmほどの石の下に白色の蛹が見つかった(図2)。蛹は活発に腹部を動かして動き回った。採集した蛹は暑さにより衰弱したため、70%エタノール液浸標本とした(図3)。

蛹は比較的、体長3.0mm前後であること、後翅が認められること、肢が非常に長いことから、アシナガミゾドロムシ *Stenelmis vulgaris* Nomura, 1958 やイブシアシナガドロムシ *Stenelmis nipponica* Nomura, 1958, キスジミゾドロムシ *Ordobrevia foveicollis* (Schonfeldt, 1888) のいずれかに相当するとみられる。発見場所が河口であったことから、上流から流れてきた幼虫が、確認地点に漂着して蛹化したのではないかと考えられる。

今回の発見例は偶然の要素が大きいと思われるが、飼育下での観察例も考慮すると、川辺の石起こしでヒメドロムシ科の蛹が見つかる可能性を示唆している。

### 引用文献

- 林 成多, 2008. 島根県産水生甲虫類の分布と生態 II. ホシザキグリーン財団研究報告, (11): 61-91.  
林 成多, 2009. 島根県産水生甲虫類の分布と生態 III. ホシザキグリーン財団研究報告, (12): 235-258.  
林 成多・門脇久志 (2008) 鳥取県大山山麓の河川に生息する水生甲虫類 II. ホシザキグリーン財団研究報告, (11): 269-286.

(林 成多 ホシザキグリーン財団)